〔別掲〕 学校法人エリザベト音楽大学 2024（令和6）年度 事業報告書 2. 事業の概要

○：達成 △：着手し進行中 ×：未着手

主要項目	事業計画	内容	年度末 達成状況	具体的な達成状況の記述（年度末の状況）
(1) 経営面の計画	1)建学の精神、教育理念の実現のために	①研修会・種々の行事他をととしてイエズス会教育精神を学ぶ。	○	本年度は研修会をすべて外部認証評価受審準備に充てたために、ゴーセンス記念講演は実施しなかった。入学記念ミサ、み心のミサ、創立記念ミサ、学期中の学内ミサでイエズス会精神を知る機会を得た。
		②学生・教職員がアジアのイエズス会学校の状況を知り、慈善演奏会をととして交流を行う。	○	クリスマスコンサート（12月）等の演奏会において、募金活動、東ティモールコーヒー販売等を行い送金を行った。学長及びアント准教授は、8月に北京で開催されたAJCU-AP会議において、東ティモールの大学及びザビエル・ラーニングコミュニティ（XLC）の責任者と交流した。
		③カトリック大学連盟加盟大学との連携をととして、建学の精神、教育理念の実現を目指す。	○	学長は連盟の幹事として幹事会、総会で適宜意見を伝えた。学長は連盟連携事業としての宗教科免許の共同開催実現のチームリーダーの役割を果たした。
	2)大学教育、学生募集への取組	①教員の研究成果の発表機会を増やし、学内外に幅広くアピールする。	○	大学ホールを無料貸し出しする制度を設けたことにより、小薦専任講師が3月にリサイタルを開催した。研究紀要を例年どおり発刊した（3月）。
		②大学の教育内容、学生の活動、教員の研究成果等について広く発信するとともに、多種多様な給付奨学金の広報に務め、学生募集活動に効果的に活用する。	○	大学の教育内容、学生の活動、教員の研究成果等について印刷物、ホームページ、SNS等により広く発信した。多種多様な給付奨学金の広報は、これらの奨学金による入学者が激増したことから効果的に実施されたと判断する。特にオーケストラ奨学金による7名の弦楽器の学生が入学したことは特筆
	3) 長期計画に沿った将来計画の策定	①施設・設備補修計画に基づき年度毎の補修を実施する。	○	2号館空調設備の更新、8月の点検で漏電の危険性が明らかになった3号館高圧ケーブルの交換、旧態依然とした4号館1階の女子トイレの全面改修、経年劣化の激しい本館3・4階の廊下床材の張替えを行った。
		②次期中期計画（5年）について、学内各所から意見を集約して、決定する。	×	第3期認証評価の結果発表（3月）を受けた後に着手することに変更した。
	4)国際交流の推進	①国際情勢の変化に留意して、国際交流事業、学生の留学支援、留学生の受け入れを活性化させる。	○	8月に韓国・済州島へ吹奏楽の学生を派遣した。学部留学生の受験合格者あり。海外協定校への交換留学希望者の募集を行った。
	5)内部質保証体制の確立	①第3期認証評価受審（2024年）のために提出する自己点検評価書及び付帯書類を完成させ、実地視察に備える。	○	日本高等教育評価機構より大学評価基準を満たしていると認定された。
		②内部質保証に向けた教学マネジメント体制を維持し、学修成果の可視化等全学的な課題の改善に取り組む。	○	協議会を内部質保証の最終責任会議体と位置付け、教学マネジメント体制を堅持した。2024年度からは、学部学生が年度初めに学修ポートフォリオに年度目標を記載し、年度末にディプロマポリシー達成度を示すレーダーチャート結果を基に振り返りを行う仕組みを導入し、学修成果の可視化を進めた。さらに実技の専門科目では、レッスンの状況や試験結果を記載する実技カルテを活用し、学習プロセスの教員と学生の相互共有を昨年度に引き続き実施した。
(2) 教学面の計画	1)教学改革について【音楽学部】	①1年次から3年次まで適用されている新カリキュラムの授業科目と履修プログラムを精査し、学生の卒業後の進路決定に資するものとなるように改善する。	○	学生による授業評価アンケート、教員からの個別の聴き取り等により、新たに設定した授業科目について実態や課題の把握に務めた。その結果、修正点については次年度に向けて改善した。履修プログラムと卒業後の進路決定とのかかわりの精査は、新カリキュラムの完成年度である2025年度に実施する。
		②「学部の3つの履修プログラム」及び「ソリスト奨学生」を念頭に入れ、学部と大学院との連携を深める。	×	具体的な連携アイデアを創出できていない。学部生及び大学院生の授業評価アンケート結果他について教員が情報を共有し、学務・入学試験委員会及び研究科教育運営委員会で早急に着手する。
		③2025年度入学試験から試験内容等を大きく変更するが、年度中から検証を重ねる。	○	副科ピアノと楽典・ソルフェージュを入学試験科目から事前準備学習に変更したことによる、入学志願者の入学前の学習状況について、受験生との接点の機会あるごとに状況確認を行った。

主要項目	事業計画	内容	年度末 達成状況	具体的な達成状況の記述（年度末の状況）
		④学生の学修及び学生生活等のデータは、従来どおり担当部署が収集・分析し、教学の会議と情報を共有し、大学運営及び広報活動に活用する。	○	学生一人ひとりの状況については、各部署で綿密に情報収集を行い、必要な情報は共有した。それらは問題があった場合の早期解決に、あるいは求めに応じた学生の出身校への丁寧な説明に役立てた。
		⑤教職課程委員会は教職課程自己点検評価に関する最新情報を入手し、継続して行う。	○	教養・教職主事及び学事部学務担当職員を中心に情報収集に努めた。
	【音楽文化学科】	①新カリキュラムの履修プログラム制を点検し、段階的な学びを構築する。	○	ターム及び学期ごとに内容の検討、見直しを行った。新年度に向けて、音楽と映像を融合した作品制作を学ぶ「メディアコンテンツ」の導入及びリトミックの指導資格の取得を可能とする履修体制を構築した。
		②入学志願者増へつながる体制を強化するために、各専修の学びの魅力を学外に幅広くアピールする機会を積極的に設ける。	○	特別講座（「音楽と映像－からすだ晴奈先生を迎えて－」）及び授業公開を実施し、SNS等で学生の学びを発信した。
		③学生と社会の変化、留学生・社会人等の受け入れ枠の拡大を標榜したカリキュラム・授業内容の検討を行う。	○	社会と学生の音楽環境の変化に応じた授業を試行した。主に高校生を対象とした「エリザベト音楽大学音楽探究学習（「ベト探！」）」を実施した。
		④幼児、親子を対象とした社会貢献活動として、音楽を楽しむ場を引き続き提供する。	○	親子向けコンサート（1月）やスプリングフェスティバルでの子ども向けパネルシアター（3月）の企画・上演に加え、広島市植物公園での「トーンチャイムの調べ」（12月）に出演した。
		⑤ICTを教育活動に積極的に活用する。	○	演習や卒業研究ではパワーポイントを積極的に活用し、ICTの意義を議論する機会を設けた。作曲の実技レッスンでは浄書アプリとDTMスキルの習得を推進し、オーディオインターフェースと大型スピーカーを導入して学修環境と発表・創作の質を高めた。
	【演奏学科】	①3年目となる実技学修システム及び履修プログラムの円滑な稼働と検証を行う。	○	学科長、学科長補佐を中心に各専攻の教員協働のもと、円滑な稼働を行った。年度末の学科会議にて運用実績を検証し、現制度を継続しつつ、質の向上を目指すことが確認された。履修プログラムについては、3月に新2年生の履修プログラム登録が完了した。（演奏：15名 指導：13名 総合：4名）
		②実技試験（定期試験・入学試験）における審査の観点を整える。	○	入学試験における審査の観点は、7月の学科会議において最終確認され、10月の学務入試委員会で承認された。また、定期試験（実技）における審査の観点については、実技レッスンで指導上留意すべき事項に基づいて設定されている。
		③学内での演奏会のみならず、地域貢献活動としての学外での演奏に際しても、学生が円滑に参加できるための支援を、教員は協力して取り組む。	○	エリザベトコンサート（6月防府・9月大分）、秋のオープンキャンパス・スペシャルコンサート、各地区での進学ガイダンス・ミニコンサートにおいて演奏学科教員の多くが演奏を披露した。学生による地域貢献活動の一環として出演する各種コンサートに向けて、各専攻の連携のもと、出演者の選抜及び出演学生に対する演奏指導を実施した。
	【大学院】	①オンライン等による留学生入学試験を行い、海外からの留学生を増やす。	○	2024年度秋季入学者はいなかったが、11月末実施の2025年度春季入学留学生試験に向けては2名の出願があった。この2名はすでに日本に滞在していたので、オンライン入試は実施しなかった。
		②大学院カリキュラム改訂に向けて、現行カリキュラム下での試行的取組を行い、その効果、課題について検討する。	○	2024年度入学生から、器楽専攻鍵盤楽器（ピアノ）が伴奏領域を選択できるようにした結果、2024年度入学生については1名が伴奏領域を選択した。効果と課題についても検証し、今後予定されているカリキュラム改訂へ活用することにした。
		③修士課程、博士後期課程ともに、学内外双方からの進学者増につなげるべく、近年の学生の実像を検討し、現行の入学試験課題、実施方法について見直しを行う。	○	音楽に熱意のある社会人入学者増につなげるため、現在の社会人特別選抜入試の出願条件の一部を緩和した。
		④著名な演奏家や研究者などを招き、公開講座あるいは公開レッスンを実施する。	○	2024年5月10日にヤン・イラスキー氏（ピアノ）による、L.ヤナーチェクについてのレクチャーコンサートを開催した。

主要項目	事業計画	内容	年度末 達成状況	具体的な達成状況の記述（年度末の状況）
2) 学生生活支援について 【学生生活】		① 学生の人的成長と自立を促し、学生主催行事の実施に向けて支援をする。	○	学生会が中心となって企画運営を行った大学祭を開催するにあたり支援を行った。大学祭も成功に終わり、学生たちの達成感もみられた。
		② 悩みを抱えた学生、学修不振者、障がいを持った学生について面接等で状況を把握し、その内容により、学事部学生生活、学生生活主幹、HR担任、レッスン担当者、学生相談担当、看護師等と連携して支援を進める。	○	各担当者との連携は密に行っており、気がかりな学生の情報収集と支援を行った。
		③ 合理的配慮への理解を醸成し、合理的配慮を必要とする学生への取組を各担当者との連携のもと行う。	○	合理的配慮について外部講師を招聘し、研修を実施した（9月）。合理的配慮を申請する学生が増えている中、各担当との連携を速やかに行っている。
		④ 教職員が連携して指導・支援を行い、退学者及び休学者が出ないように努める。	○	各担当者との連携が機能し、気がかりな学生を注視しながら必要に応じて支援を行った。
【就職・進学サポート】		① 学生の多様性に対応しながら、キャリアサポート委員会、キャリア支援室、学生生活センター室長、教養・教職主事、ホームルーム担任等が連携し、一人ひとりのニーズにあった支援を行う。教職を目指す学生については、特に、教養・教職主事との連携を深める。	○	キャリアサポート委員会、学生生活センター室長、教養・教職主事、ホームルーム担任等との連携を行った。
		② 卒業後の進路決定を早めるために、1年次に進路希望調査を行い、3年次、4年次の全員面談の前に学生と進路について話せる機会を作る。日本学生支援機構奨学生（給付型、貸与型）には、特に早期から就業に対する意識を醸成する。	○	1年生必修の「キャリア教育Ⅰ」の授業中に「進路希望調査」を行い、早期面談の準備に取り組んだ。2年生全員との面談には至っていないが、2年生からの面談の対応は行っている。
		③ 就職した卒業生あるいは企業との接触機会を増やすことにより、就職活動の方法、就職試験対策等、就職活動をどのように進めるべきかを具体的に示す。また就職試験合格に必要な技能、筆記等のレベルを上げるために教員と連携する。	○	8月から4回にわたり「キャリアサポートレター」を発行した。活躍する卒業生及び地元企業担当者の求める人材像などのワンポイントアドバイスを掲載した。就職試験合格に向けた技能・筆記等のレベルアップに関する取り組みは行っていない。
		④ 大学院進学希望者、留学希望者に対しても、的確な情報を届けられるよう、教職協働関係を強化する。	○	大学院進学者については、「修士課程の授業料後払い制度」という新制度について説明を行うなど、大学院に進学しやすい状況を説明。6名が後払い制度を利用して入学した。
3) 国内及び国際交流 【国内外の交流】		① 国内（外）のカトリック大学との連携・交流活動・事業を計画し、実行する。	×	東ティモールでの演奏会は次年度に延期を決定。
		② 学外における留学生支援イベント等での留学生の演奏活動を支援する。	○	日本産業退職者協会の「留学生との交流会」（6月、11月）、広島県日中親善協会「交流の夕べ」（7月、3月）、第7回西日本地区中日友好交流大会（8月）、広島県・四川省友好提携40周年記念事業「～ニハオ四川省！～」(9月)において留学生が演奏を行った。
		③ ASEACCU国際会議に学生を派遣する。	○	第30回ASEACCU総会・国際会議がオーストラリアン・カトリック大学（8月、オーストラリア・ノースシドニー）で開催され、本学からは、川野学長、学生2名、教員1名、職員1名が参加した。テーマは、"What makes a Catholic University Catholic?— Expressing and Integrating Identity and Mission—"であった。
【国外交流協定校との交流事業】		① ブリュッセル王立音楽院（ベルギー）をはじめとする交流協定大学との対話の機会を増やし、交流事業を実現する。	○	エラスムス・ブリュッセル応用科学芸術大学（ベルギー）とエラスムス方式（制度）による交換留学協定が締結された。4月の入学式にデニス・クルイツ学長（エラスムス・ブリュッセル応用科学芸術大学）とヤン・ダーネ氏（ブリュッセル王立音楽院長）を招待し、午後に調印式も行われた。国際事務局（central international office）からの連絡と協定書の署名が遅れており、3月末現在未着であるが、先方との連絡は取れている。
		② クリスマスコンサートの目的をアジアのイエズス会学校に対する支援として実現する。	○	12月7日のクリスマスコンサートにおいて実施した。
		③ コロナ後の状況を見極め、四川音楽学院（中国）またはフィリピンの大学等におけるマスタークラスレッスン・演奏会等を実施し、留学生獲得に努める。	×	秋以降にフィリピンへの渡航について検討したが、教員間の日程調整ができず、現地入試及びマスタークラスレッスンの実施は不可能となった。オンラインでの入試を継続予定。中国への渡航は、国際情勢から厳しい状況にあるため保留。

主要項目	事業計画	内容	年度末 達成状況	具体的な達成状況の記述（年度末の状況）
	4)学生募集活動及び広報 【学生募集活動について】	①教職員からの志願者情報の収集を継続的に行う。高校訪問、出前授業、音楽指導者とのコンタクト、進学関連業者による高校内での進路ガイダンス、各種音楽セミナー、コンクール、演奏会、ネット媒体などから情報を収集し、募集活動に活用する。	○	通年業務として鋭意継続中。高校生、高校教員、レスナー等に直接コンタクトできる出前授業・出前レッスン・アドバイズレッスン・高校内進路ガイダンス等については、実施頻度に拘りながら情報発信・情報収集を行った。また今年度新たな試みとして、進学系媒体業者のフロムページが手掛ける「夢ナビ」企画に参画。本学教員4人の講義動画を作成し、高校等で配布される講義シートのQRコードから視聴できるようにした。また、二次利用として大学YouTubeチャンネルで動画を視聴することも可能。4月から3月までの夢ナビ講義シート配布数はおよそ11,000枚、そこからの動画視聴回数はおよそ3,900回となった。大学YouTubeチャンネルでの視聴数は合わせて500回を超えた。
		②2022年度より始めた大学広報代行業務の委託員（以下「エリアパートナー」）への積極的な働きかけにより、エリアパートナーとの連携をより深め具体的な動きに結びつける。また、新しい地域のエリアパートナーについても随時増員し、広範囲での継続的な学生募集業務を展開する。	○	昨年度、エリアパートナーの急逝により空白となっていた宮崎エリアに、今年度より新たなエリアパートナーが就任した。担当エリアは宮崎県・鹿児島県を中心に九州南部を担当し、合計5人のエリアパートナーが活動している。それぞれに大学から情報発信・資料送付など活動をサポートするとともに、年2回の面談を通じて半期ごとに活動を振り返り、相互に目標や要望等を共有している。エリアごとに大学広報の必要性を吟味しながら、今後、新しいエリア及び既存エリアでの増員を含め、新規エリアパートナーの募集を検討していく。今年度の明確な成果は、宮崎のエリアパートナーのご尽力により、1名の学生が確保できたことである。また、山口担当のエリアパートナーからも、音大進学検討中の高校生情報が複数報告された。
		③オープンキャンパスを、夏（6月・7月・8月）、秋、翌春（スプリングフェスティバル）の予定で実施する。2024年度からの新たな入学試験制度に伴う「入学準備学習（副科ピアノ、楽典・ソルフェージュなど）」について周知徹底する。各専修専攻の教員と連携してオープンキャンパスのプログラムをより魅力的なものにし、幅広い年代の志願者を獲得する。	○	夏のオープンキャンパス、秋のオープンキャンパスを計画どおりに実施した。2025年3月には春のオープンキャンパス「スプリング・フェスティバル」を実施した。オープンキャンパスへの集客に向けては、春からの高校訪問、業者主催の高校内ガイダンス、指定校推薦依頼のための訪問、県外での進学ガイダンスなど、様々な場面で新しい入試制度・奨学金制度の紹介を行った。夏場のオープンキャンパスでは、冷蔵庫をレンタルすることによりコールドドリンクを提供するなど、ホスピタリティに工夫を加えた。
		④県外での募集活動・募集企画は、地域ごとにメリハリをつけ、コンサート実施会場、従来型の進学ガイダンス実施会場、出前授業・出前レッスンを軸にアプローチする地域を設定する。各地の音楽系部活動強豪校、音楽科・音楽コース設置校での出前授業・出前レッスンを積極的に提案し、実施する。	○	例年より早く募集策を展開するため、4月より県外での進学ガイダンスを実施。コンサート及びレッスン実施会場（岡山市、松山市、福岡市、松江市、下関市、福山市）、レッスンを軸にした実施会場（大分市、熊本市、佐賀市、長崎市）、本格的な演奏会形式で臨んだ都市（防府市、大分市）と、エリアごとに内容を検討し実施した。演奏会を実施した2都市では、地元の同窓生と連携し、情報交換のための交流会等も実施した。また観客動員に向け、地元の高校への訪問・出前レッスン等も実施した。高校への出前授業・出前レッスンは通年で提案、実施している。教育提携協定校に対しては、教員派遣及び特別オープンキャンパス等の対応も継続した。
		⑤受験生等の要望に応じて、学内見学、ホール体験、進学相談（対面及びリモート）を随時通年で対応する。	○	オープンキャンパスなどのイベント時のみならず、希望に応じて臨機応変に対応した。
		⑥各地の同窓会との連携を深め、地域の情報をより深く数多く収集する。	○	今年度は、特にエリザベト・コンサートを実施した地域で、同窓生との交流を図った。同窓会事務局とも連携し、同窓生の情報共有をした。また、学事部企画・広報に同窓生の職員が着任したこともあり、同窓生からの情報収集・情報発信のチャンネルが広がったことにより、同窓生との連携強化が図れた。
		【広報活動について】	①広報誌（大学案内、エリザベトアイ他）の制作と配布、各種SNS（Facebook、LINE@、Instagram）及び大学WEBサイトでの情報発信により、継続的に大学の魅力を伝える。	○
②学内関係者への大学案内及び入学試験説明会は前年より一月前倒して4月に行う。	○		例年5月中旬に実施していた大学案内説明会を4月4日に実施した。これに伴い、県外での進学ガイダンスも例年より約1か月早く開始し、募集活動の早期化に取り組んだ。	

主要項目	事業計画	内容	年度末 達成状況	具体的な達成状況の記述（年度末の状況）
		③学生募集につながる外部団体（広島県合唱連盟、全日本ピアノ指導者協会、全日本吹奏楽連盟他）との関係強化により大学の魅力発信と情報収集を図る。	○	各団体及びその関係者との良好な関係が継続している。主な内容としては、吹奏楽コンクールへの広告掲載（広島県）、PTNA支部役員への大学説明会（松山市）、ヴォーカルアンサンブルコンテストの共催（本学にて開催）など。関係者への情報発信、関係者からの情報収集は通年で行った。
		④広島県・市、東広島市、教育ネットワーク中国等各種団体の主催イベントに協力する（県立美術館コンサート、市役所コンサート、シャレオ大学生コンサート他）。	○	地域社会との連携事業は、大学の果たすべき役割の一つとして近年ますます注目されている。春のグリーンフェア（広島市：6月）、こどものためのミニオペラ（東広島市：9月）など、本学教員及び学生が積極的に参画している。呉市の大和ミュージアムでの「旋律大和」（広島テレビ放送）など、民間企業等からの演奏依頼にも、公益性など判断し、学生の出演機会創出の一助として応じている。今後も、シャレオ大学生コンサート（教育ネットワーク中国：12月）、市民サロンコンサート（広島市：12月）、市制施行50周年記念コンサート（東広島市：2025年1月）などを実施した。その他、本学の音楽活動等による社会・地域貢献活動は、延べ191件（前年度113件）となった。
		⑤在学生と連携した情報発信の取組として、エリザベト音楽大学PR動画コンテストを実施する。キャンパスリポーター他学生による大学情報の発信を支援する。	○	初めての試みである動画コンテストを実施した。作品募集期間を4月15日から5月31日とし、期間中に応募のあった6作品についてこの企画の趣旨に照らして審査した結果、4作品をコンテストの対象とした。大学PR活動の定着、学生との連携強化を図るため、初回の反省を生かしつつ第2回動画コンテストの実施を決定した。募集期間は11月18日から年明け1月14日として作品を募ったが、第2回は1件の応募であった。キャンパスリポーターについて、今年度スタート時の登録者は2人でいずれも4年生ということもあり、全体的な投稿頻度は少ない状況だが、今年度後期から新たに2人の学生がキャンパスリポーターの資格を得たことで、9月以降は毎月記事が新聞紙面に掲載された。年間の掲載件数は8件だった。
5)教職員研修（SD/FD） について	①本年度は第3期認証評価受審（2024年）が研修の中心となり、その対応のための研修を適宜実施する。自己点検評価書の内容把握を専任教職員全員で行う。	○	5月7日と5月17日に認証評価研修会として、全教職員が参加し、自己点検報告書の執筆内容について確認及び共有を行った。また9月17日には、全教職員による教職員研修会を開催し、授業評価アンケートの集計分析、研究倫理、文科省の教育動向等について情報共有を図った。	
	②教職員を研修会等（オンライン研修を含む）へ積極的に参加させ、そのフィードバックを共有することにより研修の成果を多くの教職員の業務に生かす。	○	日本私立大学協会、日本私立学校振興・共済事業団、及びネットワーク中国が主催する研修会をはじめ、業務に関連する研修に教職員を派遣した。研修内容のフィードバックは、報告書の回覧はもとより、各関連委員会や会議体の中で行った。	
6)演奏活動	①創立75周年記念事業終了後も、引き続き教職員及び学生一致して各種演奏会の成功を目指す。	○	エリザベト音楽大学を広く世間に知っていただくこと及び教職員・学生の日頃の成果発表を目的として演奏会を主催した。	
	②専任教員がソリストを務める広響との協演演奏会は継続するが、開催時期を検討して実施する。	○	創立75周年記念事業として始まった広島交響楽団との協演演奏会は、入学式に参列する保証人に聴いていただくことを目的に、2025年4月5日の入学式後に開催した。	
	日程	演奏会名・行事名・会場・出演者		
	6/7（金）	エリザベト音楽大学コンサートシリーズ I（セシリアホール） 「スピリチュアルコンサート」 共催：（公社）日本産業退職者教会広島支部（予定） 小蔦寛二（専任講師、ピアノ）、升島唯博（専任講師、声楽）	○	スピリチュアルコンサートは、2名の新任専任教員のお披露目として、日本産業退職者協会広島支部との共催で開催した。 【テノール独唱】テノール：升島唯博 ピアノ：小林知世 【演目】モーツァルト：ラウラによせる夕べの想い、メンデルスゾーン：夜の歌、歌の翼に、ブラームス：子守歌、ヴォルフ：祈り、シュトラウス：万霊節、献呈、シェック：船乗りの歌、全ての私の望みは息を潜める、マリアの歌、武満徹：小さな空 【ピアノ独奏】ピアノ：小蔦寛二 【演目】シューマン：パピヨン Op.2、フランク：プレリュード、フーガと変奏曲 Op.18 (H.パウアーによるピアノソロ版)、ラヴェル：管弦楽のための舞踏詩「ラ・ヴァルス」

主要項目	事業計画	内容	年度末 達成状況	具体的な達成状況の記述（年度末の状況）
	10/26 (土)	第83回定期演奏会（セシリアホール） ピアノ協奏曲（2曲対象、オーディションにて決定） チャイコフスキー：交響曲 第6番 口短調 作品74『悲愴』ほか ピアノソロ：オーディションによる選抜学生 指揮：井田勝大 演奏：エリザベト音楽大学交響楽団	○	ピアノ協奏曲を含めた管弦楽曲で実施した。指揮者井田勝大氏の得意分野であるバレエ音楽、チャイコフスキーの大作交響曲「悲愴」も披露した。ピアノ協奏曲ソリストは5月実施オーディションにて大学院松尾真菜実が選ばれた。 【演目】F.ブーランク：バレエ組曲『牝鹿』、F.メンデルスゾーン：ピアノ協奏曲 第1番 ト短調 作品25、チャイコフスキー：交響曲第6番口短調 作品74『悲愴』 /
	12/7 (土)	チャリティークリスマスコンサート（セシリアホール） 前半 合唱中心のプログラム、後半 オーケストラと合唱による演目 指揮：寺沢 希 ほか 演奏：エリザベト音楽大学合唱団・交響楽団 合唱委嘱作品披露（作曲家・本学講師：三宅悠太）	○	合唱中心の構成、混声合唱はオーケストラとC.オルフの大作「カルミナ・ブラーナ」を披露した。声楽ソリスト（学生）は7月実施オーディションにて選抜。 【1・2年生女声合唱】G.フォーレ：小ミサ曲（ソプラノソロ：村田 菜） 指揮：寺沢 希 【2年生による合唱】グレゴリオ聖歌 指揮：佐々木 悠 【声楽専攻生による合唱】三宅悠太：Ave Maria (2024年度合唱委嘱作品（初演）) 指揮：寺沢 希 【混声合唱・オーケストラ】 C.オルフ：カルミナ・ブラーナ 指揮／柴田真郁 演奏／エリザベト音楽大学合唱団・交響楽団管弦楽団 ソプラノ／栗栖こころ テノール／ 櫻田亮 バリトン／折河宏治
	12/13 (金)	エリザベト音楽大学コンサートシリーズ II（セシリアホール予定） ヤン・イラーチェック・フォン・アルニン（客員教授、ピアノ）	○	イラーチェック先生から提示された以下の演目でコンサートを実施した。 【演目】バッハ＝ブゾーニ：われ汝に呼ばれる、主イエス・キリストよ / シャコンヌ ニ短調 BWV1004、F.ショパン：ノクターン 作品9-1、作品9-2 / スケルツォ 第1番 口短調、F.リスト：かいば桶のそばの羊飼いたち（クリスマスツリー S.186より） / タベの調べ（超絶技巧練習曲集S.139より）、F.リスト：バラード 第2番 口短調 S.171
	その他	大学院新人演奏会、卒業研究発表・演奏会、エスポワール新人演奏会	○	大学院新人演奏会は該当者無し。卒業研究発表・演奏会は3月9日に開催。エスポワール新人演奏会は、3月23日にくらしき作陽大学にて開催された。
(3) 管理面の計画	1)施設設備改修と建物長期計画について	①建物の長期更新計画に基づき計画的な施設設備改修する。	○	年次計画を立案し、計画的な施設設備の改修を行った。2024年度は、2号館空調設備の更新を10月に完了した。8月の電気設備点検で、高圧ケーブルの絶縁値の低下が指摘され、その交換工事を行った。1989年竣工の4号館1階女子トイレの全面改修、経年劣化の著しい本館3・4階廊下の床材の張替えを行った。
	2)委託業務(清掃、寮管理、西条管理、その他)について	①業務内容の検証及び再検討を継続して行う。	○	昨今の人件費の高騰による業務委託費の上昇中、保安業務等は安易な契約の継続を見直し、相見積りをとるなど、価格が適正であるかどうかを判断し、必要であれば委託先を変更してコストの軽減を図った。
	3)西条キャンパスの将来計画(土地、建物、設備)について	①西条キャンパスのなおい層の活用を図り、在り方については、幟町キャンパス校舎建替と合わせて検討する。	○	将来、幟町キャンパスを建て替える際には西条キャンパスの利用が必要であることから、当面両キャンパスを維持する。施設の使用については、音楽園西条教室のレッスンの他、4月の新入生オリエンテーションに使用した。
	4)女子学生寮(セシリアホーム)の管理運営について	①「学生寮セシリアホーム規則」に則り安心・安全な寮生活について徹底するとともに、実態の確認を行いながら改善点を見つけ、指導を徹底して、寮生活の質の向上を図る。 ②委託業者による寮監との連携を行うことにより、寮生活全体の充実を図る。 ③寮食の食べ残し等の無駄が生じないよう、寮生を指導すると同時に寮食の注文方法を検討する。	○ ○ ○	学生生活担当職員と寮監とが連携し、問題があった場合は学生生活センター室長にも報告し、個人指導を行った。寮生全員に知らせたいこと及び注意喚起が必要なことは、月に1度ある寮生会で寮監から伝えた。 些細なことでも遠慮なく寮監とメールや電話でやり取りを行い、寮生の心身の安全が図られるよう教職員との連携を密にしている。 2024年度後半から、無断欠食が多い学生には直接声をかけた。年末には、学生寮全体として欠食数が減った場合に、寮生が希望する設備の更新（シャワーヘッド交換）を提案したところ欠食数が減ったので、12月に設備の更新を行った。ところが、その翌月に欠食数が増加したため指導を継続、現在は減少傾向にある。

主要項目	事業計画	内容	年度末 達成状況	具体的な達成状況の記述（年度末の状況）
	5) 付属音楽園・エクステンションセンター事業について	① 体験会の開催、園生演奏会等をとおして、園生を増やす取組を継続する。	○	インターネット検索時、大学音楽園ホームページに誘導できるよう、新たにランディングページを設置したほか、ネット検索の分析ツールも活用し、数年来の入園者数減少傾向を横這いにすることができた。また、合唱団プエリ カンタテスは、体験レッスン会の中でミニコンサートを行うなどの周知活動を強化し、在籍者の増加につなげた。
		② 新園長及び副園長の就任とともに、音楽園と大学の連携を深め、大学に入学する園生を増やす道筋を構築する。	○	新企画として合同発表会において、音楽園を卒園したエリザベト音大生が出演（演奏・インタビュー）することにより、園生や保護者に大学のことを周知した。
		③ 教員による依頼講座を含め、受講生が見込めるエクステンションセンター講座を企画する。	○	受験につながる高校生も受講可能なエクステンション講座を新たに開講した。
	6) 財務について	① 1号館(セシリアホール)及び本館の建替（あるいは大規模改修）に備え、基本金積立の原資の確保に努める。	○	予算計画どおり1億円の第2号基本金積立を行った。
		② 経常収支差額の確保のため、教育活動収支における赤字の削減を図る。	○	教育活動収支における赤字は学納金収入の減収を主因として前年度比で増加したが、経常収支ベースでは良好な金融環境が続いたこともあり、利金収入の好調を主因として黒字化した。